

栗原市中核機能地域の整備の基本構想（案）に対するご意見と栗原市の考え方

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|---------------------------|----------------------------|---------|--|--|--|
| 1 | 1. 中核機能地域の整備の基本構想の策定にあたって | | 1 | <p>構想策定の目的について、中核都市機能の進め方に大賛成である。構想案のとおり、栗原市は近隣都市に比べて条件が良いがバラバラであり、我が若柳、我が栗駒では、将来栗原市は分散してしまうと思う。この構想は市民によく説明し、市民の意識を高めて、市民一体になって取り組んでいく必要があると思う。</p> <p>対象エリアについても、基本構想案のとおり、くりこま高原駅周辺から築館宮野地区が良い地域と思う。エリア内に、今どこにもない道の駅と今県北で気仙沼にしかない看護学校等を取り込みながら地域活性を進めてほしい。</p> <p>構想の位置付けについては、市民になかなか立案者が少ないので、思い切った政治、政策を求める。</p> | <p>貴重なご意見として承ります。</p> <p>今後、より具体的な整備計画を策定する過程におきまして、市民の皆様へ丁寧な説明を行ってまいります。</p> | 企画部 |
| 2 | 1. 中核機能地域の整備の基本構想の策定にあたって | | 1 | <p>構想案ができてうれしく思う。やっと栗原市のこれからのあるべき姿が見えてきた。広く市民の意見、思いを聞き、市民、行政、議会が栗原市の将来あるべき姿に向かい、力を合わせて取り組むべきと強く感じる。本構想が前に進まなければ、栗原市の前途が暗雲となるのではないかと危機感が走る。ぜひ、皆が一丸となり実現のために注力してほしい。</p> | | 企画部 |
| 3 | 2. 中核機能地域形成の基本的な考え方 | | 2 | <p>今はインターネット社会。敢えて税金を使い新たな街づくりをする必要はない。</p> <p>中心市街地はなくとも、医療、インフラ、市行政等においてスケールメリットは活かされている。</p> | <p>合併以降、市の人口は1万人以上減少しており、今後さらに、少子高齢化と人口減少が進んでいくことが見込まれております。</p> <p>こうした状況を克服するため、18歳までの医療費や保育料の2人目以降の無料化など、さまざまな事業に取り組んでまいりましたが、若い世代の流出に歯止めをかけるまでには至っておりません。</p> <p>こうしたことから、若い世代に住みたいと思っただけの新しいまちづくりを進めることが重要と考え、第2次栗原市総合計画及び第2次栗原市国土利用計画におきまして、東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域を「中核機能地域」と位置づけ、新たな交流や賑わいを創出する拠点として開発を行うこととしたものであります。</p> <p>今回の基本構想につきましては、若い世代の転出抑制、移住促進を目的として、若い世代の意見を反映させ、策定するものであります。</p> | 企画部 |
| 4 | 2. 中核機能地域形成の基本的な考え方 | ①まちづくりの課題と中核機能地域形成の基本的な考え方 | 2 | <p>栗原市を取り巻く環境のうち、都市機能については、合併によるスケールメリットが活かされておらず、商店、スーパーマーケットの撤退などのデメリットが目立つ。急速な人口減少や子育て環境については、特色を活かした高等教育機関や、小児科、産婦人科医院の誘致など、医療機関の充実が必要と考える。広域文化圏については、神楽や長屋門など、栗原市が持つ独特な文化遺産の活用、大きな大会などが開催できる施設の建設と指導体制づくりを望んでいる。</p> | | <p>今回の基本構想につきましては、若い世代の転出抑制、移住促進を目的として、若い世代の意見を反映させ、中核機能地域形成の基本的な考え方や、今後の整備の方向性などについて検討を行ったものであります。</p> <p>ご提案のございました内容につきましては、今後、基本計画を策定する中におきまして、十分に検討を行ってまいります。</p> |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|----------------------------|---------|---|---|------|
| 5 | 2. 中核機能地域形成の基本的な考え方 | ①まちづくりの課題と中核機能地域形成の基本的な考え方 | 2 | 少子高齢化と人口減少、限界集落化が日々迫っている中、一部を賑やかにしても時遅しと感じるが、若者を地元にとどめる手段として、働く場を作ることは必要と考える。老人は自分で遠くへの移動が困難であり、いきなり「賑やかなまちづくり」を願っても、道路や地域の交通状況により大きく変動すると思う。目的は良いと思うので、非常に困難な地域状況であると思うが、市民のために働く場、作物を売る場所を作ってほしい。 | 今回の基本構想につきましては、人口減少に歯止めをかけるため、若い世代の転出抑制、移住促進を目的として、若い世代の意見を反映させ、若い世代が住みたいと思っていただけるまちづくりを行うために必要な機能などについて、検討したものであります。拠点1は憩いの場、拠点2は雇用の創出、拠点3は居住場所として、これら3つの拠点が連携することによりまして、市外に人が流れないように仕組みをつくってまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。 | 企画部 |
| 6 | 2. 中核機能地域形成の基本的な考え方 | ①まちづくりの課題と中核機能地域形成の基本的な考え方 | 3 | 栗原のへそ地に、多世代多地域から賑わえる集う場、地域資源を活かした観光資源の活用などを図り、全市民で住みよい栗原と経済の活性化と観光振興には大賛成である。 | 人口減少社会に対応した、新しいまちづくりの施策のひとつとして、市のへそとなる「中核機能地域」を形成し、新たな交流や賑わいを創出することによって、市政運営の理念であります「市民が創る くらしたい栗原」の実現を目指してまいります。 | 企画部 |
| 7 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 6 | ②周辺エリアの現状と課題について、当地には「入の沢遺跡」や「伊治城跡」など歴史資源があり、志波姫・宮野・富野地区は昔より交通の要衝であり、現在も栗原の交通網の結節地点となっており、この地に中核機能地域を整備することは必須と考える。 | 人口減少社会に対応した、新しいまちづくりの施策のひとつとして、市のへそとなる「中核機能地域」を形成し、新たな交流や賑わいを創出することによって、市政運営の理念であります「市民が創る くらしたい栗原」の実現を目指してまいります。 | 企画部 |
| 8 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5、6 | 以前スポーツパーク構想が計画提案された当該地区に「生活創造拠点」を計画することについて、すでに市が土地を購入し、後付けでその用途を考えたものではないか。 | このエリアにつきましては、今後、まちづくりを進めていく上で非常に重要な場所と認識しており、中核機能地域内における「生活創造拠点」として基本構想に盛り込んだものであり、市において用地の取得は行っておりません。 | 企画部 |
| 9 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 6 | ②周辺エリアの現状と課題について、周辺道路の充実が課題と考える。国道4号線バイパスについては、遺跡が開発のネックになっていると考えるが、他方では遺跡発掘予定地に高架線を設けるといふ対策を行っている地域もあると聞いている。 | 貴重なご意見として承ります。市といたしましても、周辺道路の充実は必要不可欠であると考えております。また、国道4号バイパスの整備につきましては、国に対し、早期の完成を要望してまいります。 | 企画部 |
| 10 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 当該エリアは、道路にトラックが走っただけで揺れるため地盤が軟弱だと考えるが、改善できるのか。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、地盤対策や周辺への影響、渋滞対策等について、十分に検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 11 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | イベントを開催した場合に、高校の授業や病院患者等への影響はないか。 南側入り口は救急車の搬入道路と近隣だが、人が集中していた場合混雑による影響は出ないか。 | | |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|------------------------|---------|--|---|------|
| 12 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10 | 7haという面積は、栗原市の立地を考えると広大とはいえ、10haある仙台の西公園のような「都市」公園をつくるのは良いことなのか。 また、栗原中央病院や住宅地に隣接していることから、イベントの音について問題が生じると思う。河川に隣接しているのに、自然環境を生かした公園になっていないので、栗原の自然環境や景観にもっと開かれたものになれば良いと思う。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、さらに市民の皆様のご意見を伺いながら、具体的な整備面積の検討を行ってまいりますとともに、自然環境を活かした公園となるよう、さらに検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 13 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 参考事例写真について、P10写真のような自然は、既に栗原市には十分ある。P11に西公園とあるが、西公園は人口が多く自然の少ない仙台にあるからこそ市民が集うのだと考える。 | 市内には数多くの公園がありますが、総合計画に関するアンケート結果におきましても、公園に関する市民満足度は、最も低くなっております。 このようなことから、市の全域からアクセスしやすい市の中心部に、子どもからお年寄りまで、すべての市民の皆様が、憩い、楽しめるような機能を導入することとしたものであります。 | 企画部 |
| 14 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 排水対策として道路の整備を想定した案に賛成する。近年、温暖化に伴い異常気象が多発し、各地で大被害が起きる中、現状の中央病院、近隣の住宅、商業施設が被害に遭わない排水対策は喫緊の課題であると考え。被害が出る前に拠点の整備を望む。現状の農地については、荒廃が急速に進むものと思う。排水対策を備えた交流の場、公園に最適と考える。 | 市といたしましても、排水対策は、喫緊の課題と捉えております。今後、排水の工法等について、十分に調査検討を行いながら、生活創造拠点の整備に向けた検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 15 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 9 | 排水対策をすることで浸水想定に対応するとあるが、周辺地域から当該地域へのアクセス路も一層安全性を確保する必要があるのではないかと。公園は住民が避難する場所となるので、もっと安全な場所に市の中核たる総合公園を作る方が合理的ではないかと思う。 | このエリアにつきましては、市の中心に位置しており、市内全域から集まりやすい場所であると考えております。 こうしたことから、市のへそとなる「中核機能地域」を形成することとし、栗原中央病院周辺につきましては、市民生活の質の向上を図る「生活創造拠点」として、主に、広場・公園機能の導入を検討したところであります。 市内全域からよりアクセス向上に向けて、今後、道路整備の検討も進めてまいります。 | 企画部 |
| 16 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 9.11程度の大雨による災害が起きた場合の影響はあるのか。 | 今後策定する基本計画とあわせて、このエリアの排水対策について、十分に調査検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 17 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 13 | 一番期待している公園について、A案の静のエリア動のエリアが明確に分かれていること、B案の迫川の水の脅威への対策、どちらも混ぜて万全に作ってほしい。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、今回お示ししましたA案及びB案の良い点を組み合わせながら、導入する機能や規模、配置の検討を行ってまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|------------------------|---------|--|---|------|
| 18 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 7 | <p>③ニーズのうち、自由な市民活動の場の創出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗原市総合計画に関するアンケート結果について、公園の整備状況に対する満足度は不満足度を上回っているのであれば十分ではないか。満足度が40%を超えないことが「ニーズ」につながる理由は何か。 ・若者ワークショップ等から提案のあったアイデアについて、市の財政状況に関する前置きをした上で聞いた結果なのか。 ・岩ヶ崎高校生へのアンケート結果のうち、「まちの緑・公園の充実」は、やや満足を含めれば満足度が高く、これをニーズにつなげるのはこじつけではないか。 | <p>総合計画に関するアンケートにおきましては、総合計画に掲載した57件の施策すべてについての満足度の調査を行っております。その結果、約半数の施策についての満足度は50%を超えており、40%を下回ったのは、公園整備など6つの施策で、こうした施策の満足度を高めることが、市の課題と捉えております。</p> <p>また、若者ワークショップや高校生アンケートにつきましては、今後も栗原市に住み続けたいと思えるために必要な機能や、進学等により、市外へ転出した若い世代が、栗原市に帰ってきたいと思えるまちづくりを行うためにどのような機能が必要かなどについて、できるだけ自由活発なご意見をいただくため、敢えて市の財政状況については、ご説明しておりません。</p> <p>なお、アンケート結果におきましては、「まちの緑、公園の充実」は、満足・やや満足の合計で68.7%となっておりますが、「まちのにぎわい」では、満足・やや満足の合計で32.5%、「レジャー施設の充実」では、合計で19.3%となっておりますことから、これらをニーズとして捉え、本文に記載したものであります。</p> | 企画部 |
| 19 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 8 | <p>③ニーズのうち、子育て環境の充実について、国が消費税の増税により、本格化させている「待機児童0」や「介護職員の待遇の改善」等の対策を見守っていけば、今より改善されていくと考える。</p> | <p>市内には小さい子どもが遊べる公園が少ないため、市外へ出かけているといった声もあり、ハードの面から若い世代の移住・定住を促進するためにも、広場・公園機能のほか、子育て支援機能を導入することとしたものであります。</p> | 企画部 |
| 20 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 11 | <p>若柳にあるくりでん公園の芝生広場と遊具は、親子が集まっている。同程度の大きさの公園が学区ごとなどの身近にあれば、ある程度ニーズは満たされるのではないか。その上で、中核の公園とするならば、ミーティングスペースや相談窓口などの施設的なものとソフト的なものがあれば良いと思う。</p> | <p>既存の公園につきましては、これまで同様にご利用いただけるよう管理運営を行ってまいります。</p> <p>また、中核機能地域における生活創造拠点につきましては、合併したスケールメリットを生かし、10地区すべての市民が集える広場・公園機能を導入することについて、検討したものであります。</p> <p>ご提案いただきまして内容につきましては、今後、基本計画を策定する中におきまして、提供するソフト事業とあわせて検討してまいります。</p> | 企画部 |
| 21 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10 | <p>想定する利用者を全市民とすることについて、面積の広い栗原市で、どれだけの市民が当該公園を利用するか、積算根拠が明確でない。</p> | <p>生活創造拠点の導入機能につきましては、主に「広場・公園機能」や「多世代多地域交流機能」とし、市民の皆様が楽しんでいただけるよう、子どもが工作などで自由に遊べるプレーパークや、マルシェ、フリーマーケット等の開催など、より機能を充実する手法について、一例として、お示ししております。</p> <p>今後、基本計画を策定する過程におきまして、多くの市民の皆様にご利用いただけるよう、より機能を充実する手法を検討してまいります。</p> | 企画部 |
| 22 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10 | <p>整備の必要性は認めるが、遠隔地に住んでいる人の活用は期待できない。</p> | <p>中核機能地域形成のコンセプトにつきましては、「10地区がつながり、ALL栗原を牽引する中心地域」としております。</p> <p>今後、市内全域の市民の皆様が参加いただける魅力のあるイベントの開催や、車を所有しない方々も来場しやすい交通ネットワークの構築について、検討してまいります。</p> | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|------------------------|---------|--|--|------|
| 23 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10 | 公園エリアに子どもから高齢者まで集える施設が想定されているが、資料の中に弱者への配慮が見えにくいと感じる。例えば、ランニングコースなど健常者が疾走する所には、足腰の弱い高齢者や弱者はこわくて入っていけないので、そういったことへの配慮もお願いしたい。 | 10ページの広場・公園機能の文章の3行目に、すべての市民が利用しやすいユニバーサルデザイン（年齢や性別などにかかわらず、誰もが等しく利用できることを目指した建築までの設計）を徹底しますと記載しておりますとおり、子どもから高齢者まですべての市民の皆様が、安全・安心にご利用いただけるよう、今後、検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 24 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 近隣以外の利用者の交通手段はどうするのか。交通弱者が利用できず、若い人だけが使う場所にならないか？ | 栗原中央病院につきましては、市民バスの発着点となっておりますので、市民バスを利用してご来場いただけるものと考えております。 なお、今後におきましても、より多くの市民の皆様にご利用いただけるよう、効率的で利便性の高い交通ネットワークの構築について検討してまいります。 | 企画部 |
| 25 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5、7 | 拠点の形成イメージにあるシンプルで創造性を生む空間設計や、③ニーズにある自由な市民活動の場の創出について、当該区域に図書館や総合博物館を設置し、施設と公園が一体となり、この地域が市の中核となるよう拠点化を図り、学生や市民の創造を生む空間の場や自由な市民活動の創出の場、県内外への情報発信の場とすることを提案する。 | 貴重なご意見として承ります。今後、基本計画を策定する中におきまして、十分に検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 26 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 栗原の先人が創りだした「栗原のふるさと」を愛し、これからの「ふるさと栗原」の未来を創造していくことこそ、構想案にある「質の高い市民生活」に通じると考えるので、そのために生かせるものとして、栗原中央病院前の「多目的市民の広場」を起点に、一迫川沿いから続く「大仏山公園」、「伊治城跡歴史公園」巡りの散策コースを検討して欲しい。 | ご提案のございました「多目的市民の広場」を起点とした散策コースの検討など、より具体的な活用方法につきましては、次の段階であります基本計画を策定する中におきまして、検討を進めてまいります。 中核機能地域形成の基本的な考え方であり「10地区がつながり、ALL栗原を牽引する中心地域」としていくため、中核機能地域で創出される賑わいが、市内各地に広げられるような活用方法を検討してまいります。 | 企画部 |
| 27 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 質の高い市民の暮らしのために、市民が地域の歴史・文化を知り、先人が創りあげてきたふるさと栗原を次世代に伝えていけるよう環境の整備をしてほしい。 | | 企画部 |
| 28 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 広場・公園機能、多世代多地域交流機能・子育て支援機能、防災機能と組み合わせた市民の自由な発想により創り上げる「生活創造拠点」の整備は、10地区の市民が集えるエリアとして掲げているが各地区既存施設とのマッチング・バランスのフレーズが不足してはいないか。このゾーニングは重要項目であるので、整備イメージA案を基本に具体・実現性のある整備計画をスケジュールしてみてもどうか。 | 総合計画に関するアンケート調査の結果におきましては、公園整備に関して、満足と回答した割合が最も低くなっており、若い子育て世代からは「子どもが自由に遊べる公園が欲しい」といった意見や、市民が集まりやすい市の中心部に「10地区すべての市民が集まれる場所が欲しい」といった意見が寄せられております。 こうしたことから、生活創造拠点におきましては、大きなイベントの開催も想定した機能を導入することとしたものであり、各地区既存施設との組み合わせという視点ではなく、現在、市において不足している機能を導入することとしたものであります。 また、土地利用図につきましては、日常利用からイベントの開催までを想定したA案と排水対策を考慮したB案の2つの案をお示し、標準的な整備スケジュール期間として5～6年を想定したところであります。 具体・実現性のある整備計画につきましては、今後、基本計画を策定する中におきまして、検討を進めてまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|------------------------|---------|---|--|------|
| 29 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | エリア内の土地利用整備は重要と考える。P14 A案について、イベント開催時にステージ風の場所があると良い。 市民まつり開催時などは駐車場が不足するが、築館高校グラウンド整備エリアの一部（南側）を臨時駐車場に借用すれば、緑地広場もイベント会場に利用できると思う。 | いただきましたご意見につきましては、次の段階であります、基本計画の策定の中におきまして、このエリアで実施するイベント等の利用目的にあわせて、検討してまいります。 また、駐車場につきましては、休日に大規模なイベントを開催する際には、栗原中央病院駐車場の活用も想定しており、生活創造拠点内の駐車場とあわせて、1,000台程度の駐車場は確保できるものと考えております。 | 企画部 |
| 30 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 現在の公園を利用してほしい。周辺住民の要望を入れた再整備をお願いしたい。いこいの場所づくりを実現してほしい。 | 既存の公園につきましては、これまで同様にご利用いただけるよう管理運営を行ってまいります。 また、中核機能地域における生活創造拠点につきましては、合併したスケールメリットを生かし、10地区すべての市民が集える広場・公園機能を導入することについて、検討したものでありますので、ご理解願います。 | 企画部 |
| 31 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 5～16 | 宮野公園の整備について、遊具の設置をしてほしい。 | | 企画部 |
| 32 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 旧部落単位から外し宮野中央地区を作る自治会を発足し、自治会の運営を振興し、宮野中央住民の意識を持たせることはどうか。中央公園の有り方も変わると期待する。 | | 企画部 |
| 33 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | マルシェやイベント開催に対応可能な場所とあるが、場所を有効活用できるプレイヤーの育成も計画の中に位置付けるべきと考える。 | 10ページ中段の表の右側「運営イメージ」の1点目に記載しておりますとおり、幅広い層で構成された協議会により、公園の管理・運営、イベントの企画実施を行うこととしておりますほか、3点目に記載のとおり、専門的な団体等の育成を行い、運営につなげられるような検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 34 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 一般的な公園は管理敷地内で物品や軽食等で気軽に出店できない状況なので、公園等で気軽にトライアウト出店が可能になる規制緩和を前段階で進めてはどうか。 | ご意見のございました物品の販売等につきましては、現在におきましても、市の条例におきまして、市長の許可を得て、出店できることとなっております。 | 企画部 |
| 35 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 当該公園の維持管理費は相当かかると思うが、市内に点在している公園などは削減・集約するのか。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、検討してまいります。 | 企画部 |
| 36 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (1) 『生活創造拠点』（栗原中央病院周辺） | 10～11 | 春夏秋冬の利用イメージはどうなっているのか。 | | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|---|---------|---|--|------|
| 37 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 17～23 | みやぎ県北高速幹線道路、国道4号築館バイパス、東北自動車道の三主要道路を活用しての商業観光拠点構想は、全国でも例のない最高の場所だと思う。 （仮称）築館ICの整備が確定しており、高速道路、一般道路両方から利用可能な商業施設（道の駅）を整備し、栗原の物産販売や栗駒山への案内、PR等を実施し、観光誘客を目指してほしい。 | このエリアにつきましては、ご意見のとおり、主要な幹線道路の結節点であり、将来的には、（仮称）栗原ICの設置も予定され、完成後においては、さらなる交通量の増加が見込まれるエリアであります。 こうしたことから、このエリアを通過する方々をターゲットとし、商業観光拠点として、産業振興機能や情報発信機能等、道の駅のような機能を導入し、市の特産品の開発と販売を行うことにより、産業の振興を図るものであります。 さらにこの拠点を、栗原の観光の拠点（ハブ）とし、栗駒山をはじめとした市内の観光情報を発信し、この拠点から市内各地への誘客を図ってまいります。 | 企画部 |
| 38 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 18 | 商業観光拠点の面積が示されないのはなぜか。 | 基本構想では、中核機能地域の開発の基本的な考え方や事業の方向性を検討するものであります。 商業観光拠点につきましては、市での開発と民間による開発の双方を検討したところであり、開発の主体を含め、整備場所や施設の規模、配置などにつきましては、次の段階である基本計画において検討することとなります。 こうしたことから、18ページの位置図のとおり、整備を想定するエリアをお示ししたものであります。 | 企画部 |
| 39 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 17 | はやく道の駅を造ってほしい。栗原市の将来の発展のためにぜひ実現してほしい。 | 貴重なご意見として承ります。道の駅の整備につきましては、栗原市にしかない特徴のある道の駅となるよう、今後さらに市民の皆様のご意見を伺いながら、導入機能や施設の規模、整備候補地等の検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 40 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 17 | 道の駅について、せっかく田舎暮らしの第1位に選出されたので、それに付随するものとして、全国に誇れる道の駅が欲しい。自然が豊かなだけではだめだと思う。 | ご意見のとおり、栗原市は、豊かな自然が最大の魅力ではありますが、それだけでは若者の移住定住にはつながらないとの声もごさいます。 「商業観光拠点」におきましては、市内の観光地や特産品など、市の魅力を発信できる機能を設けることや、雇用の創出につながる機能の導入について、今後、さらに検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 41 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 19 | ③ニーズの栗原市総合計画に関するアンケート結果のうち、満足とやや満足を合わせた数値40.1%は誤りで、正しくは41%ではないか。また、満足度が不満足度よりも多いので、「商業施設（大型施設）の充実」については満足しているといえるのではないか。 | ご指摘のとおり、41.0%の誤りです。お詫びして訂正させていただきます。 また、19ページの上段8行目の「商業施設（大型施設）の充実」の満足度につきましては、20ページ上段のアンケート結果の5番目に記載のとおり、満足とやや満足の合計で22.9%であり、満足度は低いと捉えております。 | 企画部 |
| 42 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 20 | 国道4号バイパスの整備について、一日も早い北伸を望んでいる。 | 貴重なご意見として承りますとともに、国に対しまして、早期の完成を要望してまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|---|---------|--|--|------|
| 43 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 20、21 | ③ニーズのうち、交通量の増加への対応について、各道路の整備は細倉メインパーク、ジオパーク、栗駒山等への所要時間が短縮されることに大きな意味があるため、本拠点について「周辺道路の交通量の増加が見込まれるため、周辺道路の通過者をターゲットにした機能が求められます。」とあるが、全く必要ない。 ・新たな直売所は、既存の直売施設や各地区の中心商店街の客まで奪い、シャッター通り化を一層加速させるのではないかと。 ・休憩施設は、市が計画しなくても、需要が見込まれれば、民間がドライブイン等を作るのではないかと。 | 商業観光拠点に産業振興機能として、直売所等の商業施設を設けることにつきましては、今後、市内直売所等との連携を図る仕組みの検討を進めてまいります。 また、「需要があれば民間がドライブイン等をつくるはず」というご意見に関しましては、市といたしましても、民間が主体となった開発も期待するところであります。 なお、このエリアにつきましては、現在、市が整備の検討を進めている「道の駅」の候補地の1つとしており、市が開発を行うのか、民間開発の促進を行うのかなど、開発主体について、今後、慎重に検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 44 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 21～22 | 直売所や地場製品の販売等、休憩施設等を作ることは道の駅とかがぶるのではないかと。 | 道の駅の整備につきましては、このエリアを含む3か所の候補地を選定し、今後さらに、市民の皆様のご意見を伺いながら検討を進めていくこととしております。 なお、道の駅の整備候補地として、他のエリアを選定した場合につきましては、基本構想でお示しした産業振興機能や休憩機能を提供することができる民間事業者の誘致を進めてまいりたいと考えております。 | 企画部 |
| 45 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 22 | バスターミナルの機能について、今はマイカー時代であり、バス運行は考えられない。コミュニティ機能について、本拠点から遠いところの高齢者が集うとは考えられない。各地区で盛んに行われている各行事も、近場で実施するから参加率が良い。 | ご意見のとおり、今はマイカー時代ではありますが、学生や高齢者など、車を所有しない方もいらっしゃいます。 こうした方々にもご利用いただけるように、バスターミナル機能を設けることとしております。 市が開発を行う場合につきましては、多くの方々にご利用いただけるよう、単に買い物を行う施設ではなく、児童福祉や高齢者福祉などの行政サービスを一体的に提供できる施設とする必要があると考え、高齢者のためのコミュニティ機能を設けることとしたものであります。 | 企画部 |
| 46 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17 | 商業エリアだけでなく、親戚や孫たちが遊びに来たときに、みんなで楽しめる場所ができれば大変うれしい。アスレチック、クラブト、昔の遊びコーナー、B級グルメ的フードコートなどがあれば一日楽しめると思う。 | 道の駅の整備につきましては、平成31年度におきまして、導入機能や規模、整備予定場所について検討を行うこととしております。 その過程におきまして、市民はもとより、市外の方々が何度も訪れたくなるような施設となるよう、今後、さらに検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 47 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17、18 | 商業団地のような、多様な店舗が出店可能なスペースを確保、誘致する政策を同時進行させることが必要と考える。 高速道路のインターチェンジができることから、国道からも高速からも利用できる商業スペースが良いと考える。 | | 企画部 |
| 48 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17～23 | 以前に要望した、道の駅設置案を参考にして欲しい。 特に、栗原の魅力・活力をアピールする場としての施設、地域連携機能、災害時防災拠点としての施設について参考にして検討して欲しい。 | 商業観光拠点につきましては、市の産業振興を図る、経済の拠点としての役割を担うこととしております。 導入機能につきましては、産業振興機能や情報発信機能等をお示ししておりますが、単に買い物をするだけの施設ではなく、児童福祉や高齢者福祉といった市の課題解決に資するサービスの一体的な提供を行うなど、市にとって必要不可欠な施設となるよう、今後も検討を進めてまいります。 ご提案のございました、「地域連携機能」や「災害時防災拠点」としての機能の導入につきましても、今後、慎重に検討を進めてまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|---|---------|--|--|--|
| 49 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17～23 | 市内の他の直売所の営業を圧迫する可能性があるため、ネットワーク化という相互利益をどのように生み出すのかを具体的に知りたい。 また、将来、集客効果が上がってくると、他地域業者も参入してくると思うが、テナント等の考えはあるのか。 | 道の駅整備につきましては、平成31年度におきまして、導入機能や規模、整備予定場所、運営主体などについて検討を行うこととしております。 その過程におきましては、市内の既存直売所等との連携や、施設へのテナントの出店等についての検討を行うほか、市民はもとより、市外の方々が何度も訪れたいくなるような施設となるよう、いただきましたご意見を参考とさせていただきながら、今後、さらに検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 50 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17～23 | 拠点としての場所は最適であり、賛成する。今後観光の整備を具体化し、休憩、食事、買い物などができるエリアに気軽に寄りたくなるように仕向けていくことが必要。駐車場は広くしてほしい。 また、農産物販売にあたっては、市内それぞれの地域に合って、特色が活かされる農産物の作目、品種の栽培が不可欠であると考えてるので、行政と農協が一緒になって指導していけば、栗原市の特徴、特産が現れる農産物の販売ができると考えるので、同時進行での整備を望む。 | | 企画部 |
| 51 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 17～23 | 特産物や名物を開発して、売れる物を展示し、観光者が興味を持てる店作りに努めてほしい。 | | 企画部 |
| 52 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 21、22 | 栗駒山や農業という現在ある資源を活かしきれていないと感じる。栗駒にできた「山の駅」も中途半端で、期待から程遠いものであった。大崎市「あ・ら・伊達な道の駅」のような、機能の充実した、発信力のある道の駅を考えてほしい。 | | 企画部 |
| 53 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 21、23 | ④拠点整備方針について、将来の可能性を考える際に、観光バスが通過するだけの栗原市ではなく、美しい自然環境や特産品を利用し、近県と協力しながら、魅力的な観光開発に力を注いでほしいと思う。市民や観光客が買い物や休憩の場所として楽しめる場所、多くの目的を持つ道の駅が必要と思う。 また、珍しい道の駅として、現在栗原市に店舗がないファーストフード店を導入してはどうか。 | | 道の駅整備につきましては、平成31年度におきまして、導入機能や規模、整備予定場所、運営主体などについて検討を行うこととしております。 その過程におきましては、市内の既存直売所等との連携や、施設へのテナントの出店等についての検討を行うほか、市民はもとより、市外の方々が何度も訪れたいくなるような施設となるよう、いただきましたご意見を参考とさせていただきながら、今後、さらに検討を進めてまいります。 |
| 54 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 21～23 | 産業振興機能休憩施設機能、交通アクセス機能、情報発信機能について、直売所等の商業施設、フードコート、オープンスペース、観光情報の発信ブース、バスターミナル施設等のほか、伝統芸能・陶芸等の歴史文化の紹介実演ブース等々の施設整備、運営等は民間活力の活用促進、さらには栗原市にしかないもの・こと、栗原市に行かなければならないもの・こと、栗原市しかできないもの・ことをコンセプトに構想と計画をセレクトしながらさらにボリュームアップしてはどうか。 | 企画部 | |
| 55 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺） | 21 | 民間事業者が主体となるのであれば、採算コスト削減を目指すため、雇用の創出はごくわずかであると考えている。 | 市といたしましては、雇用の創出につきましては、雇用人数も大切なことと考えておりますが、それ以前に、雇用を生み出す場所を作り出すことが、さらに重要であると考えております。 民間事業者が主体となり整備をする場合につきましても、今の若い世代の方々が好む職種の民間事業者の進出や、多くの雇用を生み出せるような民間事業者の誘致を進めてまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|---|---------|--|----------------|------|
| 56 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (2) 『商業観光拠点』（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差部周辺） | 21～23 | 整備スケジュール、実現化方策の検討について、構想案に示された整備スケジュールは5～6年と想定されているが、事業計画・実施にあたっては関係する諸官庁との協議や許認可事務にかかわる相当な時間や高度なノウハウが要される一大プランであり、トップダウンではなくボトムアップの提案とした、専従部署・職員を配置するなど本気度を適・随時に示してほしい。 | 貴重なご意見として承ります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|--------------------------|---------|---|--|------|
| 57 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24~34 | 通勤、買い物、レジャーなど仙台や古川そして首都圏へのアクセスの良さは、単なる交通移動手段の出入り口のみならず、生活環境に恵まれた安価な住宅地の供給、移住・交流拠点としての位置づけがなされてはいるが、住宅地は二世帯、三世帯が住めるような広い区画のレイアウトも工夫した住宅開発があっても良いのではないか。若い世帯の核家族ばかりだと30年・40年後は高齢者世帯ばかりのまちになってしまわないか。老若男女間交流も視野にした整備手法も一考では。 | 基本構想におきましては、土地利用図のイメージとしてお示したものであります。 今後、整備に向けての基本計画等を策定する中において、二世帯、三世帯住宅の建築実績の動向や、ニーズの調査等を行いながら、区画面積等を検討してまいります。 | 企画部 |
| 58 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24~34 | A案の駅西側の開発案に賛成する。現在の生活商業施設と隣接した方が、居住者としては利便性が向上するものと思う。駅東側は現状の農用地を残すことによって、農作物の生産の現状が良く見え、農業振興がさらに深まるものと思う。駅を活かした移住圏はとて面白い発想である。 未来の栗原が実現するよう願う。 | 貴重なご意見として承ります。 今回の基本構想を策定する過程におきましては、くりこま高原駅からの栗駒山の眺望が魅力であり、その景観を損なわないような検討が必要とのご意見をいただきましたことから、駅西側と駅東側の2つの土地利用図のイメージをお示したところであります。 今後、さらに市民の皆様のご意見を伺いながら、「移住・交流拠点」の整備に向けた検討を行ってまいります。 | 企画部 |
| 59 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24 | 新たに拠点を創るより、空き家を利用することを最優先するべき。新たな住宅は全く必要ない。 | 市におきましては、空き家バンク制度や空き家リフォーム助成などにより、市内に点在する空き家を活用した移住定住の促進に努めております。しかしながら、このまま人口減少が進み、集落の人口密度が低くなれば、スーパー等の商業施設が撤退することも想定されますことから、将来を見据えて人口密度の高い地域をつくることも必要であると考えております。 | 企画部 |
| 60 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24~34 | 東北一の住みたい町といわれる栗原市。若者が定着し夢を持てる未来を感じさせる予感を感じさせるまちづくりを目指してほしい。 | 貴重なご意見として承ります。 「移住・交流拠点」につきましては、特に、市外からの若い世代の移住・定住を促進するためのハード整備として、今後もさらに検討を進めるとともに、子育て支援策のさらなる充実も検討しながら、若者が夢を持てるまちづくりを進めてまいります。 | 企画部 |
| 61 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24~34 | 大変遅れていた、市の玄関口としての開発整備をお願いしたい。 | このエリアにつきましては、栗駒山の眺望が良好なエリアであります。こうしたことから、栗原の豊かな自然を感じながら居住できる空間として、栗原らしい魅力的な居住環境の整備を目指してまいります。 | 企画部 |
| 62 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 24~34 | 高原駅開発については、あまり必要がない。商店街を何とかしてほしい。 | 「移住・交流拠点」につきましては、くりこま高原駅を利用して市外から来訪いただく方々にとりましての、市の玄関口であると考えております。 こうしたことから、来訪者の方々と市民の交流を行える場所として、交流促進機能や宿泊・飲食機能を導入することとし、その交流を契機とした移住・定住につなげていくため、住居ゾーンを設けることとしたものでありますので、ご理解願います。 | 企画部 |
| 63 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』(くりこま高原駅周辺) | 25 | くりこま高原駅は現状のままでも、周囲に商店街がなく、栗駒山を眺望できる田園風景のめずらしさが魅力となっている。 | ご意見のとおり、くりこま高原駅から眺める栗駒山のすばらしい景色は魅力でありますことから、その景観を損なうことのないよう、駅の西側と駅の東側を開発する2つの案をお示したところであります。 今後、駅周辺の開発を進める際におきましては、さらに市民の皆様のご意見をお伺いしながら、栗駒山を眺望できる栗原の自然を感じられるような開発の検討を進めてまいりたいと考えております。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|--------------------------|---------|---|--|------|
| 64 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 27 | ・宿泊機能や飲食機能を高めるとあるが、既存施設の営業を妨害する恐れがある。 ・移住者が求めるのは非日常が味わえる自然豊かな場所であり、便利さは重要ではないと考える。 ・貸し農園を意図しているのであれば、迫桜高等学校や園芸事業農家と協同の下、遊休農地等を活用する方が良い。 | くりこま高原駅につきましては、新幹線で栗原を訪れる方々の玄関口であり、駅周辺の現状は、エポカ21と商業施設が立地しておりますが、賑わいや回遊性に欠けております。 こうしたことから、来訪者が「栗原の食」を楽しめるような小さな飲食店を誘致し、来訪者の滞在時間を長くすることができるようにするとともに、来訪者と市民が交流し、情報交換を行える小規模な宿泊施設として、若者向けのゲストハウスを設けることとしたものであります。 都会から地方への移住を検討している方々の中には、田舎で農園のある暮らしを望んでおられる方々もいらっしゃると思っております。こうした方々が、栗原で農のある暮らしを楽しんでいただけるよう、土地利用図の案では共同農園を設けることとしているものであります。 | 企画部 |
| 65 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 24～34 | 「ALL栗原」という言葉が使われているが、他地域とこの拠点のつながりの創出について具体的に知りたい。 また、ターゲットや日々の暮らしなど、このエリアでのライフスタイルのイメージを示してほしい。 | 「移住・交流拠点」につきましては、くりこま高原駅を利用して市外から来訪いただく方々にとりましての、市の玄関口であると考えております。 こうしたことから、来訪者の方々と市民の交流を行える場所として、交流促進機能や宿泊・飲食機能を導入することとし、来訪者と市民が交流できるエリアの整備と栗原の食をお楽しみいただけるような飲食店街の誘致を行うこととしているものであります。 また、このエリアでのライフスタイルにつきましては、24ページの中段以降に、若者サラリーマンの移住と題して、仮想ではありますが、この拠点でイメージする生活像をお示したところであります。 | 企画部 |
| 66 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 28 | 交流促進について、既に市内イベントは多数あり、十分である。 | この拠点での交流を契機とし、仙台で働くサラリーマンが移住したケースを想定したものでありますが、平日は仙台へ新幹線通勤を行いながら、週末は農のある暮らしを楽しめる生活像をお示しております。 | 企画部 |
| 67 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 24～34 | 商業施設、住宅施設の整備をしてほしい。市街化を実現してほしい。 | 「移住・交流拠点」につきましては、くりこま高原駅を利用して市外から来訪いただく方々にとりましての、市の玄関口であると考えております。 こうしたことから、来訪者の方々と市民の交流を行える場所として、交流促進機能や宿泊・飲食機能を導入することとし、その交流を契機とした移住・定住につなげていくため、住居ゾーンを設けることとしたものであります。 今後、より具体的な整備を検討する過程におきまして、集合住宅等の住宅施設のニーズも調査した上で、必要に応じて、住宅施設の整備の検討も進めてまいります | 企画部 |
| 68 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 29 | ゾーニングイメージにある住居ゾーンの中に、地域住民等を対象とした、全天候型テニスコートなどの都市型施設の導入を検討してほしい。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、より具体的な活用方法について検討を行う予定としております。 この度いただきましたご意見も参考にいたしますとともに、さらに市民のご意見を伺いながら、導入機能についての検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 69 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 29 | ゾーニングイメージにある交流ゾーンを拠点として、拠点内をめぐるサイクリングロードを設けてはどうか。 | 中核機能地域内の連携を図るため、3つの拠点をめぐる移動手段としてサイクリングロードを設けることにつきましては、有効であると考えております。 これらのご意見を参考に、今後さらに検討を進めてまいります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-------------------------------|-----------------------------------|---------|---|--|------|
| 70 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (3) 『移住・交流拠点』（くりこま高原駅周辺） | 24～34 | P32～33のA、B案を比較した場合、A案は学校エリアに近く、居住環境には最適な構想と思う。 A案のうち、区画エリアA～Dの区画数は約500戸と想定すると、総て居住されるまで10年や15年では到底無理な構想とも考えるので、区画整備は将来を見据えて進めてほしい。 市内の移住では人口増大はできないため、市外から定住する特典を考察してほしい。 | 基本構想におきましては、市のまちづくりの将来ビジョンとして、約350区画数と最大限の開発規模をお示したところでありますが、この構想の具現化にあたりましては、民間活力の活用をはじめとした公民連携が必要不可欠であると考えております。 実際の整備にあたりましては、区画エリアごとに工期を設定して、造成、分譲を行い、販売状況を踏まえて、次の区画エリアの造成を行うなど、効率的かつ効果的な販売戦略も検討してまいります。 また、この拠点につきましては、市民と来訪者の交流の場の創出と、その交流を契機とした移住を促進する住環境の創出を整備方針としております。 現在におきましても、市外からの若い世代の移住を促進するため、「マイホーム取得費助成事業」や、市外へ通勤する方を対象とした「遠距離通勤支援事業」などの支援を行っておりますが、この拠点を整備する際には、市外の方々の分譲地取得等を促進するための支援も検討してまいります。 | 企画部 |
| 71 | 3. 中核機能地域内における各拠点のコンセプト・土地利用等 | (4) 中核機能地域各拠点の役割・連携、効果的な活用方法のイメージ | 35 | 広い面積の栗原市で、各拠点のターゲットが「全市民」になるとは考えられない。人口減少等に伴うスマートシティ化、コンパクトシティ化を図るのであれば各拠点が必要と思うが、現在は各拠点の必要性を全く感じない。 | 市におきましては、今後ますます少子高齢化と人口減少が進むものと見込んでおります。人口減少社会に対応していくためには、現在のみを見るのではなく、10年後、20年後、さらにその先の将来を見据え、行政サービスを届けられるエリアを縮小するコンパクトシティ化も検討していく必要があると考えております。 今回の基本構想につきましては、市の中心となる「中核機能地域」を形成し、若い世代の移住定住を促進するとともに、長期的な視点に立ったまちづくりの構想として策定するものであります。 | 企画部 |
| 72 | 5. 実現化方策の検討 | ①実現化に向けた推進体制 | 39 | 地元住民との合意形成とは、地権者のみか、全市民か。 | 事業実施にあたりましては、3つの拠点の周辺にお住まいの方々や地権者の方々をはじめ、市民の皆様のご意見を伺ってまいります。 | 企画部 |
| 73 | 5. 実現化方策の検討 | ②実現化の手法の整理 | 40 | 総事業費、年間維持費、年間利用者見込数も示すべき。 | 今回の基本構想につきましては、人口減少時代に対応した整備開発という視点から、民間活力を活用した開発についてもあわせて検討したところであります。したがって、構想における3つの拠点のすべてを、市が整備することと決定したものではありませんので、総事業費、年間維持費及び利用者見込数はお示ししていません。 また、市が整備すると決定した場合におきましても、今後、施設の内容や規模を明確にした上で、事業費や維持管理費の試算を行うこととなります。 今回の基本構想につきましては、3つの拠点に導入する機能の案を検討したものであり、今後、策定する基本計画において、施設の内容や機能を決定し、それに合わせた利用者予測を行ってまいります。 | 企画部 |
| 74 | その他 | | | 財政状況がひっ迫している中で、新たなハコモノは必要ない。維持費がかかり、結局、後世へ借金のみ残すことは目に見えている。 「自然豊かな栗原」は、手をつけずに情報発信さえすれば、移住もインバウンドも十分可能である。中途半端な物まねのまちづくりはやめたほうが良い。 | 市におきましては、今後、さらに人口が減少し、ますます財政状況が厳しくなっていくことが想定され、道路や橋など、今ある公共施設のすべてをこれまでと同様に維持していくことは、いずれ困難になっていくことが見込まれます。 こうした状況に対応していくためには、行政サービスを届けられる範囲の縮小の検討や、将来的なコンパクトシティ化も視野に入れた検討を進めていく必要があるものと考えております。 今回の基本構想につきましては、市の中心となる「中核機能地域」を形成し、若い世代の移住定住を促進するとともに、長期的な視点に立ったまちづくりの将来ビジョンとして策定するものであります。 | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-----|---|---------|--|--|------|
| 75 | その他 | | | 市長が進めようとしている新年度事業は、これからの市の活性化のための事業であり、必ず前に進めてほしい。 | 若い世代の移住定住を促進し、人口減少社会におきましても本市の持続的な発展に資する事業の実施に努めてまいります。 | 企画部 |
| 76 | その他 | | | <p>主要都市の真似ではなく、栗原らしさを目指したまちづくりをしてほしい。農業による自給自足や、森林資源による木材、エネルギー資源による自給率の向上、農村文化の伝統、地域コミュニティなど、栗原の風土を活用し、栗原市民が将来にわたり幸せと感じる栗原を作るため、中核機能地域がどのように関わり、栗原全土を牽引していくのか、中核機能を中心ではなく、栗原市民を中心とした視点の大きなビジョンが必要と考える。中核機能地域の整備は、栗原の今後の100年を左右する可能性があるため、極めて慎重に、かつ大胆にアイデアを出し、「東北に栗原あり」と言われるようなライフスタイルの提供を目指してほしい。</p> <p>デザイン・経営・コンテンツに関する特化会議が重要と考える。ハコや場所を先に考えるのではなく、あくまでもソフト面や考え方の部分を強化し、持続可能なまちづくりとなるように計画を策定してほしい。</p> | <p>合併以降、市の人口は1万人以上減少しており、今後さらに、少子高齢化と人口減少が進んでいくことが見込まれております。</p> <p>こうした状況を克服するため、18歳までの医療費や保育料の2人目以降の無料化など、さまざまな事業に取り組んでまいりましたが、若い世代の流出に歯止めをかけるまでには至っておりません。</p> <p>こうしたことから、若い世代に住みたいと思っただけの新しいまちづくりを進めることが重要と見え、第2次栗原市総合計画及び第2次栗原市国土利用計画におきまして、東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域を「中核機能地域」と位置づけ、新たな交流や賑わいを創出する拠点として開発を行うこととしたものであります。</p> <p>今回の基本構想につきましては、若い世代の転出抑制、移住促進を目的として、若い世代の意見を反映させ、策定するものであります。</p> | 企画部 |
| 77 | その他 | | | 各拠点整備にかかる、設置コストとランニングコストの試算は現時点で出ているのか。市税という市民財産を投資することになるので、経営ビジョンを持つことは必須と考えるが、経営ビジョンはあるのか。 | <p>行政が行う計画策定のプロセスといたしましては、始めに、「基本構想」といたしまして、中核機能地域の基本的な考え方や事業の方向性などの「骨格」となるものを作ります。具体的には、市の課題や現状を踏まえ、整備の基本方針や整備予定場所、整備スケジュール等について検討を行うこととなります。</p> <p>次の段階となる「基本計画」におきましては、基本構想でとりまとめた「骨格」に肉付けを行うため、より具体的に導入する機能や規模、配置の検討のほか、概算工事費及び維持管理費の試算を行うこととなります。</p> <p>この「基本計画」では、次の「基本設計」に向けた条件設定を行うものであり、その中で具体事項や詳細を検討する進め方が一般的であります。</p> <p>そして、「基本計画」の次の段階であります「基本設計」「実施設計」におきましては、整備の工法や材料、構造や設備等の検討を行うこととなり、各段階において精度を高めながら、工事費の算出を行っていくものであります。</p> <p>したがって、設置コスト及びランニングコストにつきましては、次の段階である「基本計画」を策定する中におきまして、検討することとしております。</p> | 企画部 |
| 78 | その他 | | | 循環型のまちづくりを目指すことが必要と考える。地域にある木質資源を使用した建築のほか、木質資源を熱エネルギーとするなど、経常コストの地域内循環も導入するべきと考える。事業発注もなるべく地域内に留め、地域経済の流出も避けるべきと考える。 | 事業実施にあたりましては、ご意見のございました経常コストの地域内循環の導入につきましても、十分、検討してまいります。 | 企画部 |
| 79 | その他 | | | 3つの拠点の開発優先順位はどうするのか。同時進行なのか。 | <p>市といたしましては、現在、宮城県が築館高校グラウンド整備を検討しておりますことから、「生活創造拠点」の優先順位が高いものと考えております。</p> <p>また、他の2つの拠点の整備主体につきましては、官民連携や民間主体での開発も想定しておりますことから、3つの拠点すべてを同時進行ではなく、優先順位を検討しながら進めてまいります。</p> | 企画部 |

| 番号 | 項 | 目 | 資料 頁 | ご意見・ご提言の内容（要旨） | 栗原市の考え方 | 担当部局 |
|----|-----|---|---------|--|---|------|
| 80 | その他 | | | 高校生アンケートが度々用いられるが、岩ヶ崎高校のみのアンケートで、他の市内高校意見が反映されていない。岩ヶ崎高校だけだと、通っている生徒の意識や、土地勘に偏りが出るため、統計として不足ではないか。 | 岩ヶ崎高校2年生を対象とした理由につきましては、7ページの注釈に記載のとおりであります。岩ヶ崎高校では、平成29年度から、総合学習の時間を活用し、2年生83人が、市が抱える課題解決に向けて検討し、具体的な解決策を市に提案する取り組みを行っております。 こうしたことから、市の将来を担う若い世代のニーズの把握を目的として、アンケート調査を実施したものであります。 | 企画部 |
| 81 | その他 | | | 栗原市は既に住みたい田舎ランキング1位と評価されており、自然豊かで環境が良く、交通の便も良いため、将来の子どもたちに負担を背負わせるような、大型施設の建設には反対である。市民に詳細に説明をするべきと考える。 | 今回の基本構想につきましては、人口減少に歯止めをかけるため、若い世代の転出抑制、移住促進を目的として、若い世代の意見を反映させ、若い世代が住みたいと思っただけのまちづくりを行うため、そのために必要な機能などを検討したものであります。 今後、より具体的な整備計画を策定する過程におきまして、市民の皆様へ丁寧なご説明を行ってまいります。 | 企画部 |
| 82 | その他 | | | 構想案に賛成する。 スケートボード、ローラースケートができる施設を建設し、遊び場として開放し、将来的に地元での競技運営を目指してはどうか。 行政が運営するネットカフェのようなITの活用をしてはどうか。 | 今後、基本計画を策定する中におきまして、より具体的な活用方法について検討を行う予定としております。 この度いただきましたご意見も参考にいたしますとともに、さらに市民のご意見を伺いながら、導入機能についての検討を進めてまいります。 | 企画部 |
| 83 | その他 | | | 構想が膨大で、短時間には全体像をつかむことが難しかった。何を求めているのかわからなかった。全体として、これで可とすべきと思料された。 | 人口減少社会に対応した、新しいまちづくりの施策のひとつとして、市のへそとなる「中核機能地域」を形成し、新たな交流や賑わいを創出するため、その基本的な考え方や整備の方向性について検討したものでありますので、ご理解願います。 | 企画部 |